續祝詞雜稿

特35
788

255
521

丁	行	誤	正
はしがき	二	しし、か	しし。が。
目次裏下段	二	門田家、	門田氏。
二表	二	敎租、	敎祖。
二裏	三	彌益に	彌益。に
五表	一	春(秋、	春(秋)。
仝	七	彌益々、	彌益。
六表	四	あめがした	あめのした
仝	七	うねびのやま	うねびやま
六裏	二	彌益々、	彌益。
仝	六	うねびのやま	うねびやま
八裏	五	益々、	益。
十一表	五	しんしん	しんゝん
十一裏	五	益々、	益。
仝	八	彌々、	彌。
仝	仝	益々、	益。
十二裏	二	宣らせ	宣らせ。
十四裏	五	げぢめ	けぢめ。
十五仝	五	この狀と	この狀を。

丁	行	誤	正
十八仝	一	かに	枝に
二十一表	二	夕へ	夕べ。
仝	五	ねがひのふみ	ねがひふみ
二十三裏	八	ちやまつ	あやまつ
二十四表	六	天地金の	天地金乃。
二十七仝	四	祝祭詞	祝祭祝詞。
三十二表	三	家族親族	親族家族。
仝	四	やまのの	やまぬの。
仝	一	睦ひ	睦び。
三十四表	五	竣工へ	竣工へ。
仝	六	工日	美日。
三十五裏	六	行事、	行幸。
三十六表	二	船の樞要の處とて	船路の樞要と。
仝	四	埋立の	埋立ての。
仝	六	御爲ヲと	御爲なれば。
三十七表	五	わたなべにいぢ	わたなべのにいぢ

特35
788

はしがき

曩に人々の勸めによりて祝詞雜稿を出だしか其後も猶より〳〵輯めもて行きたりしに祭典の神事に關るものにて已に一册子とも爲すべくなりぬれば聊蛇足の嫌はあらむも今回續稿として印刷に附しぬこれ亦初心の人等の參考ともならば編者の幸なり

明治四十五年四月

編者しるす

明治
45. 4. 19
内交

目次

文例の部

元始祭日奏上詞　一丁
孝明天皇祭日奏上詞　二丁
孝明天皇遙拜詞　二丁
祈年祭日奏上詞　三丁
紀元節奏上詞　三丁
春(秋)祈念祭祝詞　四丁
春(秋)皇靈祭遙拜詞　五丁
神武天皇祭日奏上詞　五丁
神武天皇遙拜詞　六丁
六月(十二月)大祓祈念祭祝詞　六丁
同　祓　詞　七丁
神嘗祭日奏上詞　八丁
神嘗祭遙拜詞　九丁
天長節奏上詞　九丁
新嘗祭日奏上詞　十丁
祈　念　詞　十丁

實例の部

皇太子殿下御慶事祝祭祝詞　十二丁
改正條約實施奉告祭祝詞　十三丁
第一回承認狀認鑑授與式奏上詞　十五丁
敎祖大祭祝詞　十六丁

故教監金光四神貫行之君十年祭祝詞　十七丁
獨立十年紀念祝祭祝詞　十九丁
道路開通教會認可　祝祭祝詞　二十丁
西灘教會所開會祝祭祝詞　二十二丁
甲浦教會所教祖大祭教會設置十年祝祭　祝詞　二十四丁
奥平野教會所新築遷座式祝詞　二十五丁
操山教會所新築移轉祝祭祝詞　二十七丁
信徒參拜臨時祭祝詞　二十八丁
淺野教會長就任奉告祭祝詞　二十九丁
吉木教會長結婚五十年祝式奏上詞　三十丁
神恩會發會式奏上詞　三十二丁
教祖二十五年紀念祭新築工事完成奉告祭　祝詞　三十三丁
糸崎海面埋立起工式祝詞　三十五丁
鳩谷富吉開業二十年祝式奏上詞　三十八丁
門田家謝恩祭祝詞　三十八丁

目次終

續祝詞雜稿

文例の部

元始祭日奏上詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名（姓名）」畏み畏みも白さく今日はしも皇朝廷には新玉の年の首と天津日嗣の本始を祝ひまして御祭執行はせ給ふが故に此れの大御前を齋回り清回り献る御饌は和稲荒稲

餅飯の鏡を始めて御酒は嚴瓶の伊豆知り滿て
鰭の廣物鰭の狹物奥津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜
に至るまで横山の如置高成し御祭仕へ奉らく
を平らけく安らけく聞こし食し給ひて皇御大
朝廷を堅磐に常磐に守り幸へ國内平穩に民草
安泰に各〻子孫の八十連續に嚴し彌木榮の如
立榮えしめ給へと鵜自物頸根突拔きて畏み畏
みも白す

孝明天皇祭日奏上詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教租金光大神の
珍の廣前に「職名姓名」畏み畏みも白さく一月三
十日の今日はしも掛卷も畏き孝明天皇の御祭
にしあれば國中悉彌遠永く齋ひ奉れと宣給ひ
定め給へる隨此れの教會所に神籬立繁し御祭
仕へ奉らむとす故大神の珍の御前に大御饌を
捧け奉り拜み奉らくを平らけく安らけく聞こ

し食し給ひて先天皇の神奈賀良思はし立掟給ひし大御慮を受繼し萬政給ふ天皇の大稜威を彌益に打輝かし四方の國々に照り渡らしめ大御代を手長の御代の嚴の御代と堅磐に常磐に守り給ひ幸へ給へと畏み畏みも白す

孝明天皇遙拜詞

掛卷も畏き後月輪東山の陵の大御前を遙に拜み奉らくと白す

祈年祭日奏上詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名姓名」畏み畏みも白さく今日はしも皇朝廷には祈年の祭執行はせ給ふが故にこれの齋殿を拂ひ清めて獻る禮自の物と由紀の御饌御酒を始めて大野原に生ふる物は甘菜辛菜大海原に住物は鰭の廣物鰭の狹物奥津藻菜邊津藻菜に至るまで横山の如置高なし捧げ

奉らくを安御饌の足御饌と平らけく安らけく聞こし食し給ひて百姓ぞ手肱に水沫掻垂向股に泥掻寄せて取作る奥津御年を八束穂の茂穂に成し幸へ初穂をば千頴八百頴に奉らしめ給へと乞祈奉らくを聞こし食し諸ひ給へと畏み畏みも白す

紀元節奏上詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名姓名」畏み畏みも白さく此れの二月十一日の今日はしも掛巻も畏き皇祖神武天皇の橿原の大宮に座しまして肇國知食すと大禮行はせ給ひし日なれば皇朝廷には紀元節として大御祭仕へ奉らせ給ひ國内悉に大御代を言壽ぎ奉るぞ故に此れの大御前を拂ひ清め奉り禮代の御酒御饌種々の味物を横山の如置足はし献る狀を平らけく安らけく聞こし食し

給ひて皇孫尊の大御壽を手長の大御壽と堅磐に常磐に嚴の御代の足の御代と成幸へ給ひ天下の公民諸に至るまで彌遠永に安らけく守り給へと鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

春(秋)祈念祭祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名 姓名」畏み畏みも白さく今日はしも皇朝廷には歷代の天皇等の御靈の大御前を齋ひ奉らせ給ふ春(秋)の最中の吉日の足日にしあれば大御前を忌まはり清まはり日に異に蒙れる恩賴を報い奉り將往先の神幸をも仰ぎ乞祈奉らむと御酒御饌種々の味物を捧げ奉り御祭仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し給ひて掛巻も畏き天皇の大御代を嚴の御代の足の御代と成幸へ皇大御國の大稜威を彌益々に天の壁立つ極み國の避立つ限り輝き渡り

伊照り徹らしめ給ひ又信徒諸〻が美し大道を踏み過つことなく赤心の眞心以て朝夕に勤め結りて子孫の末遠長く彌茂盛に立榮えしめ給へと畏み畏みも白す

春(秋)皇靈祭遙拜詞

掛巻も畏き歴代の天皇等の皇靈の大御前を遙に拜み奉らくと白す

神武天皇祭日奏上詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名姓名」畏み畏みも白さく此れの四月三日の今日はしも言巻も畏き橿原の宮に天下知食しゝ天皇の大祭日と百敷の大宮内に て御祭仕へ奉らせ給ひ天下國中悉彌遠永く齋ひ奉れと宣給へる隨此れの教場に神籬立てゝ畝傍山の東北の陵の大御前を遙に拜み奉らむとして我大神の珍の廣前に御酒御饌を捧げ奉

り御祭仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し給ひて天皇の大稜威を彌益々に伊照渡らしめ國内平穏に民草安泰に守り給ひ幸へ給へと畏み畏みも白す

神武天皇遙拜詞

掛巻も畏き畝傍山の東北陵の大御前を遙に拜み奉らくと白す

六月(十二月)大祓祈念祭祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に畏み畏みも白さく毎年に仕へ奉りし古事の例の隨今年六月(十二月)の今日の晦日の夕日の降の大祓に此れの教會所に仕へ奉る教師を始めて信徒諸を祓戸に集へ祓物を置座に置きて祓ひ清むる事の狀を聞こし食し諾ひ給ひて天津菅苧の清々しく幣の夕風佐々屋々に今日より始めて罪と云ふ罪は殘る事なく清

まらしめ給ひ祓ひ却らしめ給ひて各〻家にも身にも病しく煩しき事なく家の産業をも彌進めに進ましめ夜の守晝の守に守り給ひ幸へ給へと種々の机代物を御前に置足はして乞祈奉る事の由を彌高に聞こし食せと白す

同祓詞

集侍れる教師信徒等諸聞こし食せと宣る此れの教會所に仕へ奉る教師を始めて信徒男女諸の過犯しけむ雜々の罪を今年六月(十二月)晦日の大祓に祓ひ給ひ清め給ふ事を諸聞こし食せ

神嘗祭日奏上詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名 姓名」畏み畏みも白さく皇朝廷には毎年の例の隨今日の生日の足日に皇太神の宮の神嘗祭仕へ奉らしめ給ふと種々の大幣帛齎して大御使を奉出し給ひ大宮中にては大

御前を遙に拜み給ひ又賢所の大御前をも躬親ら祭らせ給ふ事を畏み奉りて遙拜式仕へ奉らむとす故大神の御前を齋回り清回り御酒御饌を捧げ奉りて御祭仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し給ひて信徒諸々彌益々に勤め結りて皇朝廷に忠誠しく仕へ奉り手長の大御代を嚴し彌木榮の如立榮ゑしめ給へと畏み畏みも白す

神嘗祭遙拜詞

神風の伊勢國百傳ふ度會郡桙鈴の五十鈴原の底津岩根に大宮柱太敷立て高天原に千木高知りて鎮り坐す掛卷も畏き皇太神宮の大御前を遙に拜み奉らくと白す

天長節奏上詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名（姓名）」畏み畏みも白さく此れの

十一月三日の今日はしも天皇の御降誕坐しつる最も畏く最も尊き生日の足日にしあれば國民悉に尊み嬉しみ祝ひ奉るが故に大神の大御前に御酒御饌を始めて種々の味物を置足はし捧げ奉らくと平らけく安らけく赤丹の穂に聞こし食し給ひて天皇の大御壽を足長の大御壽と彌還若に御還若坐して彌健けく大坐しますべく幸へ守護り給へと畏み畏みも白す

新嘗祭日奏上詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に「職名（姓名）」畏み畏みも白さく今日はも皇朝廷には新嘗祭執行はせ給ふ生日の足日にしあれば御酒御饌を始めて鰭の廣物鰭の狹物奥津藻菜邊津藻菜に至るまで取々に取揃へ横山の如置高なして献り御祭仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し給ひて信徒諸が家

をも身をも守り幸へ各〻子孫の八十連續に至るまで嚴し彌木榮の如立榮ねしめ給へと畏み畏みも白す

祈念詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に畏み畏みも白さく久方の天地と共に窮りなく高光る日月と共に輝き渡らへる我大神の恩頼に依りてこそ在りとし在る萬物皆は世に生り出でゝ在り經るものなれ斯る神德の中に生されて大御惠を蒙りつゝある事をも世の人皆は得知らずてあらぬ枉神の枉事に相呪こり邪道に迷ひ果てぬる世にしも我教祖の神は顯はれ給ひ信神の一念を凝らし心行を積ませ給ひ其御光は心の暗路を照らし神と皇上との道を明らかに立て給ひ定め給ひし神訓に依りて曲れる者は神直毘の直く濁れる者は眞

清水の清く病める者の煩をば科戸の風の伊吹き拂ひて幸く眞幸く守らひ給ひ其深く厚き御蔭を蒙る者の年に月に多くなりて次々に大道の開け進み御教の榮に行く隨信徒は天の益人益々に殖りつゝ日に異に參拜み禮び奉り乞祈奉る事の由を熟らに聞こし食し諾ひ給ひて其願と願ふ事等を各〻眞心の隨神幸へ守り給ひて今ゆ後彌々信心を進め眞道を覺り彌益々に高き神徳を仰がしめ給ひて家にも身にも禍神の禍事あらしめず子孫の八十連續彌茂盛に立榮ゑしめ給へと畏み畏みも白す

實例の部

皇太子殿下御慶事祝祭祝詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に畏み畏みも白さく此れの明治の三十三年五月十日の今日の生日の足日はしも畏

かれと皇太子い藤原節子姫の君と御結婚の大典擧行はせ給はくと宜らせ給へる大詔を畏み奉りて其ぎ祝祭仕へ奉らむとす故今ゆ後相生の松の緑の彌増に千代も八千代も色變へず相並び大座坐して生れ坐さむ皇子は竹村の繁み立ち榮ゑ給へと信徒諸を御前に集はしめ千年を喚ばふ田鶴の舞ひ萬代を經む龜の歡ばひつつ言壽き奉りて献る種々の味物を平らけく安らけく聞こし食し諸ひ給ひて堅磐に常磐に春の宮居の長閑やかに大ましますべく守り幸へ給へと鹿自物膝折伏せ鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

改正條約實施奉告祭祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に畏み畏みも白さく日に月に世態の開化け進歩み事物の變遷りて明に治る御代と

言巻も畏き天皇の大稜威はし天下にい照り輝き渡る隨四方の列國との交誼をも敦くし和親をも深く爲給はむとの叡慮より今年明治三十五年の七月十七日の今日より改正條約を實施し給ふ事にしあれは今ゆ後諸の外國人も參入來つゝ内日刺都は更にて天離る鄙の國邊に至るまで各自家宅をも建並べ我國民と諸共に朝たに夕べに手取かはし膝押並べて物語らひ交らふ事も常とはなりぬべし故是を以て六月の三十日畏くも降し給ひし詔に朕は忠實公に奉ずるに厚き我臣民の深く朕が意を體して開國の國是を恪遵し億兆心を一にして善く遠人に交り國民の品位を保ち帝國の光輝を發揚するに努めむ事を庶幾ふと宣らせ給へり又我教祖の神訓には天下に他人と云ふことはなきものぞと諭し給へり嗚呼世の中の開け進み行く隨

我眞道の教の世に顯はるゝぞ尊き事の極なりける然れば教師諸は此大詔を頂に捧げ持ち此の神訓を心に銘して教へ導き說き諭すべく信徒諸は入紐の同心に力を協せ其交際も深く厚く國の內外の差別なく懇切に赤誠盡し各〻家業をも勵み勤み國內豐に富足らひ皇國の大御光を彌照に伊照り渡らしめ給へと禮自の机代物を捧げ奉り神壽に壽豐祝に祝ぎて畏み畏みも白す

第一回承認狀認鑑授與式奏上詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に金光教天瀨教會長少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく言擧げ奉らむは畏かれど我大神の神德はしも灼然に彌高く大御教はしも彌廣に彌遠く谷蟆の渡る極み國の邊の避き立つ限り押弘め布至りつゝ內務省に申請て

去年の六月にしも獨立の教派となりぬれば日に異に執行ふ種々の規程も改正り變更る隨講社と稱へたりしを教徒信徒と稱ふる事となりぬるを以て其ぞ承認狀認鑑を授與へむとす故この狀と大神に奏上奉らくを平らけく安らけく聞こし食し諾ひ給ひて教徒信徒諸ぞ美し大道を過つ事なく大御教を違ふ事なく清く赤き誠心以て朝夕に勤め結りて各ぞ家門富足らひ子孫の彌遠永く蕃殖り立榮ねしめ給へと鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

教祖大祭祝詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に金光教天瀨教會長少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく言卷も畏き我教祖の神と稱へて仰ぎ奉る人力威命はや天地の神の氏子ぞ日に異に大御惠を蒙りつゝ其廣く厚き神德

を悟り得ぬ者の多かるを最憐れと思召し歎かせ給ひ信神の念を凝らし心行を積ませ給ひ廣き世に未た教へ傳へし跡のなき大道を開き立て給ひし神訓の條々には敬神尊王愛國の事より人として踐み行ふべき眞道を菅根の懇に示し給ひ表行よりは心行をせよ何事も眞心の只一筋に願へ靈驗は和賀心にあるぞよと教へ導き說き諭して世の人等を救ひ給ひ助け給ひき

斯くて大道は次々に開け進み御教の榮に行く隨今日はも年毎の例の大祭の回り來ぬれば恩賴の百千々の一つをだに報い奉らむとして献る禮自の物と御酒御饌を始めて海川山野の味物を取揃へ机代に置足はして樂人ぞ笛吹き琴彈き奏で仕へ奉る狀をも見そなはし聞こし食し給ひて今日よりは大神の神德彌高に高き御蔭を仰がしめ大御教は彌廣に廣く遠く布擴め

しめ給ひて信徒諸は彌眞心を凝らし大道を實踐み行ひ各〻家業をも彌勵みに勵みて國中豊に富足はしめ給へと鹿自物膝折伏せ鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

故教監金光四神貫行君十年祭祝詞

故教監金光四神貫行君の珍の御前に金光教天瀬教會長少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく阿波禮慕しきかも故教監の君はや阿波禮尊きかも四神貫行の御靈はや汝君は教祖の神の神仕の御後を受繼がせ給ひ夜となく晝となく心行を積ませ給ひ教祖神の御心を心として一向に大神に仕へ奉り信徒諸を說き諭し教へ導き十年の間を一日の如勤み給ひて高き功績を立置き給ひて幽冥の空遙に天翔り教祖の神の御許に參昇り給ひしより璞の年を重ねて早も十年になりぬれば今日はも其式年祭仕へ奉る禮

自の物と献る眞榊が枝に五色の絹目も綾に垂結び御酒御饌より始めて種々の味物を御前に置足はし捧げ奉らくを吹く笛の音の亮々に琴の調の清々しく聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後教の筋を明らけく道の眞を彌廣く押弘め布施さしめ信徒諸が信心の道をも彌進めに進ましめ各が子孫の八十連續まで嚴し彌木榮の如立榮ねしめ給へと畏み畏みも白す

獨立十年紀念祝祭祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に少教正安部喜三郎畏み畏みも白さく嗚呼我教祖の神の御心行を積ませ給ひて大神の神德を顯はし眞道を開き立置き給ひし大御教の開け進みぬるを以て去し明治十八年の六月に神道本局に所屬金光教會を創設け明治二十年には進みて直轄教會となりしが次々に

擴り益〻に榮えて信徒の數は天の益人益〻に殖り行く隨明治三十二年の七月には別派獨立の願書を内務省に捧げて其三十三年の六月十六日にそが認可を蒙り全く獨立の教派となりしより年に月に教の筋は明らけく道の光は彌增に照り輝き彌榮えに榮えて今は海の外までも教會所を設立て神訓の布擴りつゝある事は畏くも尊き極みなりけり故今日の吉日の美日に信徒諸を御前に集はしめ神壽に壽豐祝に祝つゝ獨立十年の記念祭仕へ奉るとして獻る御饗の御酒御饌を平らけく安らけく聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後我眞道の教を彌廣に彌遠に押弘め布施さしめ給ひ信徒諸が信心の道を迷はず失はず末の末まで教へ傳へて子孫の八十續きに至るまで高き神德を仰がしめ給へと鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

道路開通
教會認可

祝祭祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく嗚呼世の中の開化け進歩み行く隨我眞道の立榮につゝ此れの廣前は小林の教師が日に異に仕へ奉れば參來拜む信徒諸が願と願ふ事等を各が眞心の隨神幸へ幸へ給ひて教會所の立榮ゆると共に岡山の市よりは此の里に通ふべき道路をさへ新らしく廣らに修築り竣工しめ給ひて朝たに夕へに參入り罷出る信徒は申すも更なり行通ふ人々の便よからしめ又今年六月に岡山縣令を布き教會所の規程を定められし時其が願書を提出げたりしに障る事なく滯る事なく速けく認可を蒙らしめ給ひぬ阿奈畏きかも阿奈忝きかも故今日の生日の足日に其事の由を奏上げ奉り祝祭仕へ奉ると由貴の御

酒御饌を始め海川山野の味物を種々に撰整へ大前に置足はし擎げ奉らくを樂人が奏づる琴の調に打合す皷の音の高々に聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後教會長が村肝の心をば大神の神慮と神和しに和し給ひ道の眞を愆つ事なく教の筋を違ふ事なく彌益に押弘め布施さしめ給ひて教會所は彌榮に榮に信徒諸が信心の道をも彌進めに進ましめ給ひて各が家業をも勵み勤み彌益に富足らひ皇國の爲に功しく斯道の爲に忠實しく子孫の八十連續まで嚴し彌木榮の如立榮にしめ給へと畏み畏みも白す

辭別けて白さく教會長の長男元述はしも我國民の義務として一年志願兵となり去年の十二月より第十七師團に入り大君の御爲皇國の御爲と誠心盡して勤みつゝありしに今は殆其が試驗をも卒へ隊を除るべき日も近きければ行

先掛けて一筋に道の爲勤み仕へ奉るべく若葉の春の榮をも神幸へ給へと今日の御祭の壽詞に添へて乞祈奉らくと白す

西灘教會所開會祝祭詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に少教正安部喜三郎畏み畏みも白さく阿奈尊きかも阿奈畏きかも我大神の大御惠はし天地に輝り渡り滿足らひ給ひぬれば其を畏み仰ぎ奉ると此れの教會長古瀨の教師がこの敏馬の里の諸人にも其神德を蒙らしめむものと信徒惣代等と相談らひ相計りて今回此れの教會所を設立け今日を吉日の美日と齋ひ定めて其祝式執行はむと請の隨己喜三郎參出來て大御前を忌まはり清まはり神壽に壽豐祝に祝御祭仕へ奉る禮自の物は其名も高く轟ける灘の銘酒に村肝の心明石の浦人が釣りもて來

つる鰭の廣物鰭の狹物岩屋の里に生ひ出る甘菜辛菜は手も総に摘みて洗ひ海川山野の種々の物に至るまで忌机の上も多和々に置高成し奉り置きて吹き鳴す笛の音に打合す皷の音の高々に遊の業をも奏で仕へ奉らくと見そなはし聞こし食し給ひて今日より始めて古瀬の教會長教へ導く事等は神慮に違ふ事なく神訓を愆つ事なく千尋栲縄只一筋に美し教の正道を彌廣に彌遠に布擴めしめ給ひ信徒諸々御前に參來て願と願ふ事等を各々眞心の隨守り惠み幸へ給へと鶉なす伊這ひ回り鶉自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

甲浦教會教祖大祭
教會設立十年祝祭

祝詞

掛巻も畏き天地金の神の大前教祖金光大神の珍の廣前に少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく嗚呼我教祖の神の御心行を積まゝ給ひて神

と人との通路を開き立置き給ひし我眞道の開け進み廣く厚き神德蒙る信徒の次々に殖りつつ金光教會となり直轄教會に進み彌益に大道の榮ゑて明治三十三年には別派獨立して金光教となりたりしが其十一月になも此れの教會所は設立けつるかくて澤田の教會長が廣前に仕へ奉る隨御教の擴り道の光の彌增に照り輝きてある事よ阿奈畏きかも阿奈尊きかも故今日はも教祖の神の毎年の例の大祭に併せて教會所設立十年の祝祭仕へ奉らむと御酒御饌種種の物を取々に取揃へ大前に置足はして捧げ奉らくを吹く笛の音の亮々に琴の調の淸々しく聞こし食し給ひて今ゆ後澤田の教師が道の眞を愆つ事なく教の筋を違ふ事なく彌廣に彌遠に押弘め布施さしめ給ひ信徒諸が神訓を心に銘し身に行ひ信心の道を迷はず失はず末の

末まで教へ傳へて高き神德を仰がしむべく守り給ひ幸へ給へと畏み畏みも白す

奥平野教會所新築遷座式祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく言巻も畏かれど我大神の恩頼はし久方の天と高く輝り渡り荒金の地と深く布き到り彌增に神幸へ守り給ひて我眞道の次々に開け進み益々に榮え行く隨此れの教會所を新らしく築き仕へ奉りて今其工事竟へぬれば神殿の内外を忌まはり清まはり坐せ奉り齋ひ奉りて禮自の物と由貴の御饌御酒を始めて海川山野の種々の味物を取揃へ忌机の上も多和々に置足はし笛吹き琴彈き奏で遊び神慮を宇羅賀し奉らくを甘らに安らに聞こし食し諾ひ給ひて不意く過犯しけむ事等のあらむをば神とかせ神許し

給ひて築固めし礎堅く科戸の風の害加具土の荒びなく建上し柱引渡せる桁梁戸牖の錯動き鳴る事なく打堅めたる釘の緩びなく堅磐に常磐に守り給ひ幸へ給ひ今ゆ後彌金光の御名の四方八隅に轟きて恩頼の彌増に道の眞の彌廣に押弘め布施さしめ給ひて職員諸は入紐の同心に力を協せ斯道の爲に其發展を謀り信徒諸は彌眞心を凝らし信心の道を彌進めに進め子孫の末遠永く教へ傳へて彌益に高き神德を仰がしむべく夜の守日の守に守り給ひ幸へ給へと鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

操山教會所新築移轉祝祭詞

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に少教正 安部喜三郎 畏み畏みも白さく久方の天地と共に窮りなく高光る日月と共に輝き渡らへる我大神の恩頼に依りて眞道の

月々に開け進み年々に榮に行く隨此れの教舍を廣らに新らしく築き仕へ奉り教會の等級をも五等に昇して操山教會所と改稱し今日の生日の足日に新築移轉の祝祭仕へ奉らむとして奉る禮自の物は由貴の御饌御酒を始めて海川山野の種々の味物を取々に取揃へ御前に置足はして笛吹き琴彈き奏で仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後教會長の心をば立てし柱の太く固めし礎の堅く教への筋は新殿の清く新しく彌益に押弘め布施さしめ給ひて教會所の榮は棟門の高く著く恩賴は取葺ける甍の廣く厚く彌益に高き神德を仰がしめ給ひて職員諸は入紐の同心に力を協せ斯道の爲に眞を盡し信徒諸ぞ信心の道をも彌進めに進ましめ神訓の條々をば心に締めて身に行ひ家業をも勵み勤み子孫の八十續きに至

るまで家門も嚴し彌木榮の如立榮ねしめ給へ
と神壽に壽稱へ豊祝に祝添へて畏み畏みも白
す

信徒參拜臨時祭祝詞

安部喜三郎

掛卷も畏き天地金乃神の大廣前教祖金光大神
の大前に金光教本部庶務課長少教正
畏み畏みも白さく言擧げ奉らむは畏かれど
我大神の恩賴はし天地に滿足らひ輝り渡らせ

給ひて奴婆玉の夜となく茜刺す晝となく神守
らひ給へば其を畏み仰ぎ奉ると京都在る加茂
川教會所に附屬たる信徒等が入紐の同心に相
談らひ相謀りて今日の吉日の美日に大御前に
參來て日に異に蒙れる御惠を報賽し將往先の
神幸をも仰ぎ乞祈奉らむとして御酒御饌種々
の味物を机代に置足はし擎げ奉らくを甘らに
安らに聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後職員諸は

道の眞を過つ事なく信徒諸は彌眞心を凝らし眞道を覺り家業をも勤め結りて各〻子孫を嚴し彌木榮の如立榮にしめ給へと畏み畏みも白す

淺野教會長就任奉告祭祝詞

掛巻も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に畏み畏みも白さく明に治る御代と日に月に世態の開化け進歩み事物の變遷り行く隨彌我大道は高き光の輝きて益〻に押擴れば此れの淺野教會所も次々に榮わつゝ信徒諸に廣く厚き神德蒙らしめ給ふが故に故の教會長濱田邦吉が後を受けしめて去し六月九日にも養子喜八を此れの教會長にぞ任けられける故其事の狀を奏上奉らむと御酒御饌種々の味物を御前に置足はし御祭仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後教會

長は道の眞に違ふ事なく教の筋を愆つ事なく彌遠に彌廣に教へ導き說き諭さしめ給ひ信徒諸には彌眞心を凝らし信心の道を彌進めに進ましめ各自家業をも彌益勵み勤み家門富足ひ饒ひ樂ましめ給へと畏み畏みも白す

吉木教會長結婚五十年祝式奏上詞

掛卷も畏き天地金の神の大前教祖金光大神の珍の廣前に權大講義 吉木茂 謹み敬ひ畏み畏みも白さく父母はわが家の神吾神と心盡して齋け人の子と鈴の屋の大人の言ひけむ如く己 茂 が今の現に秩の實の父と敬へる榮藏柞葉の母と仕ふるあさ子はも過にし文久の元年に神の御議と夫婦の契結びしが其後我教祖の教へ給ひし道の眞を深く覺り篤く信りて一向に我大神の尊き神德を忝なみ奉るものから世にも傳へ人にも諭してむと此れの福岡に教會所をも

設立て〻集ひ參る來る信徒を導き教へしに歳月の來經る隨其數も愈多くなりゆきて劣弱き茂すらもそが御教を受けつ〻今し日々の勤務の千々の一をも助けぬべき身となりにしが指折數ふればその盃誓せしより今年はも即て五十年の年月をなも經たりける然るを諸共に心も爽やけく身も健やかに在經るは專ら我教祖の御教に據りて我大神の廣く厚き神德を蒙れ

るに依れることと〻忝なみ奉り嬉しみ奉るが故に今日はも家族親族及知人等を大前に招ぎ集へそが謝禮の御祭仕へ奉らむと御酒御饌を始め海川山野の種々の味物を八取の机代に置高なして奉らくを平らけく安らけく聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後相生の松の立並びて千代に八千代に面變りせず彌若に若につ〻世の長人と稱へらるべく幸へ守り給ひて親族家族諸

共に睦ひ樂しみ彌益長閑やかに在經しめ給へと鵜自物頸根突拔きて畏み畏みも白す

神恩會發會式奏上詞

安藤伊之吉

掛卷も畏き天地金乃神の大前教祖金光大神の珍の廣前に金光教明石教會長中講義畏み畏みも白さく久方の天と彌高く荒金の地と彌廣く輝り渡り滿渡らせ給ふ我大神の恩賴を蒙りて此れの教會所は次々に立榮ゑ信徒諸々家をも身をも神幸へ守り給ひて日に異に心安く在經る事を嬉しみ奉り忝なみ奉る隨附屬從へる職員諸々相談らひ相議りて今回神恩會と云ふ會を結び世の爲に慈善の事を行ひて教祖の神の眞の道を立て給ひし御心に副ひ奉らむとす故今日しもそ發會式を執行ひ大前に御酒御饌を捧げ奉り拜み仕へ奉る狀を甘らに安らに聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後會員諸

ず同心に力を協せ世の爲に勉め勤むこの事業を輔ひ助け道の光を彌照りに伊照り渡らしめ給へと畏み畏みも白す

歌祖二十五年紀念祭新築工事完成奉告祭

祝詞

此れの處を神殿と鎮め奉り齋ひ奉る掛卷も畏き天地金乃神教祖金光大神の珍の廣前に少教正安部喜三郎畏み畏みも白さく我大神の廣く厚き恩頼を蒙りて此れの大江壽三郎ず成し務むる家業を彌榮ねに榮ねしめ給ふ隨去年の一月の十五日より事始めて基礎を築固め五月十日にしも棟門の高々に建上げし此れの家宅はも專ら大神の深く厚き神幸に依りてこそ如此も堅固く如此も美はしくは竣工へけめ阿那忝なきかも阿那畏きかも故今日の吉日の工日に教祖神の二十五年紀念の禮事に併せて工事完成の祝賀式をも執行はむと奉る禮自の物は由

貴の御饌御酒を始めて大野原に生ふる物と甘菜辛菜大海原に住む物と鰭の廣物鰭の狹物時の果實に至るまで横山なす置高成して樂人が琴彈き笛吹き奏で仕へ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し諸ひ給ひて今ゆ後これの大江家には枉神の枉事なく家族等の身には病しく煩はしき事なく手人諸は家の掟を過つ事なく入紐の同心に勤め勵みて商業の道を彌進めに進ましめ子孫の八十次々彌茂盛に立榮ゑしめ給へと畏み畏みも白す

糸崎海面埋立起工式祝詞

此れの處を天の磐座と祓ひ清めて神籬立繁し招き奉り座せ奉る掛卷も畏き天地金乃神教祖金光大神及此里を分領坐す產土大神等の御前に金光教會特派講師安部喜三郎畏み畏みも白さく八十日日はあれども今日の活日の足日を

吉日の吉辰と齋ひ定めて此れの海面埋立の起工式執行はむとして白し奉らくはこれの吉備後國なる糸崎の沖はや西に東に行通ふ船の航路にして風の音の遠き昔より船の帆の見へぬ日は有らざりけむ畏こかれど神倭磐余彦天皇ぶ東の方に行事坐しゝ時も其大御船は此沖を過ぎさせ給ひ息長足姫尊の筑紫に行啓坐しゝ時には此糸崎に御船泊てゝ此處に湧き出づる御井の眞清水を汲ませ給ひきとなむ然れば往通ふ船の樞要の處とて夙くより港を築き出入る船の便宜らしめ又廣き陸地をも作らむとて埋立の事を思圖れる人の多かりけるぶ中にも此れの小林德三郎はしも此は專ら皇大御國の御爲ぞと燒鎌の敏心奮起し此所の西なる三原の沖より埋立てゝむと過にし明治二十三年の頃より己一人の身に負ひもちて其事業發起め

しより己家の在るをも知らに東に西にい往き馳せつゝ有りければ裕なる家の資財も大方は費し果てしも露惜しとは思ひたらず誠心の只一筋に其事に從ひ世の有志者を奬誘ひつゝ在りけるに思ふが儘に其事業の進まねば心のみ猛りて朝夕に思ひ惱める日も多かりけり然れど常に大船の思ひ頼める我大神等の恩頼を背に負ひ奉ればいさゝ群竹聊かも撓むことなく

彌進みに進みてありけるが去年の七月二日にしも埋立工事の許可を請得て彌心も一筋に明暮事業に勞きぬれば大神等も御靈幸へ給ひて諸人の望を寄するも多かる中に樫の實の獨拔出でゝ今回渡邊榮治氏はも此工事を受負今日し其起工式を擧ぐる事とぞ成りにける此は全ら大神の御心ならむと只管に畏み奉るになむ故禮自の物と御酒御饌種々の味物を机代に置

足はし捧げ奉らくを平らけく安らけく聞こし食し給ひて朝夕に八潮路の潮の通へる海原を荒金の大地と成さしめ給ふべく又此工事を務め勤む人々が過つ事なく怠る事なく意外に出來む障なく築上ぐる堤の只一筋に打墨縄の速けく工事竣工へしめ給へと松濱の礒邊に寄せ來る潮の稱辭竟へ奉らくを相諾ひ聞こし食せと畏み畏みも白す

開業二十年紀念祝式奏上詞

安部喜三郎

此れの神床に齋ひ鎮め奉る掛巻も畏き天地金乃神教祖金光大神の大前に少教正畏み畏みも白さく世の中に輝り渡り満ち足ら給へる我大神の恩頼を蒙りて此れの鳩谷富吉が家の富饒ひ立榮え璞の年を重ねて今の商業を營み始めしより二十年になりぬれば今日の生日の足日に其が祝式を擧げ行はむと大御

前を忌まはり清まはり既往に蒙れる御恩を忝なみ奉り謝び奉ると奉る御酒御饌を平らけく安らけく聞こし食し給ひて今ゆ後賣買の道は彌廣に子孫の榮は彌遠に彌益ますます守り惠み幸へ給へと神壽に壽豐祝に祝ぎて畏み畏みも白す

門田氏謝恩祭祝詞

此れの神床に齋ひ鎭め座せ奉る掛巻も畏き天地金乃神教祖金光大神の珍の廣前に少教正安部喜三郎畏み畏みも白さく久方の天と高く荒金の地と廣く世の中に滿ち渡らせ給へる我大神の神德を仰ぎ畏み奉り教祖の功德を稱へ尊み奉ると此れの門田の家の主人安藏が大道を履みしめつゝ勵み務むる隨次々に家業の立榮ゆ行くは最も尊く最も忝なくなむ故其大御惠の千々の一つをだに報い奉らむとして今日の生日の足日に謝恩祭仕へ奉る禮自の物と御酒

に御饌に海川山野の物に種々の味物を大前に置足はし捧げ奉らくを樂人が奏づる琴の調豊に吹く笛の音の懇に聞こし食し諾ひ給ひて今ゆ後主人安藏が家にも身にも禍神の禍事あらしめず家族等睦び和らぎ手人諸が家の掟を過つ事なく實意に丁寧に勵み勤み商業の道を彌進めに進ましめ子孫の八十連續まで嚴し彌木榮の如立榮ねしめ給へと畏み畏みも白す

辭別けて白さく此れの門田の家の氏神と持齋く靈神の式年祭を今より執行はむとする狀を聞こし食し諾ひ給ひて我大神の廣く厚き愛撫の隨御靈の位をも進め限りなき歡樂を享けしめ給へと白す

續祝詞雜終

255
521

明治四十五年四月五日印刷
明治四十五年四月十日發行

編輯兼發行者　岡山縣淺口郡三和村大字大谷三百三十二番第二地　安部喜三郎

印刷者　岡山市大字船頭町三十七番地　安井宇吉

印刷所　岡山市大字西中山下二丁目　山陽活版所